

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	まちかど博物館推進事業	会計	一般会計	事業No.	752	施策順No.	62-003
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-1-14-1		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	62 地域資源の資産化		事業期間	開始	19	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民 中心市街地店舗(職人系)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)	107259	106630	105691	105036			
	対象をどう変えるか	店舗数(件)	6	6	6	6			
	意図	職人の仕事を子どもたちに体験してもらい地域への思いを新たにしてもらう 中心市街地職人系店舗へのミニ博物館の設置する							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		まちかど博物館設置数(累計・件)	6	6	7	8	7		B
		職人講座参加家族数(組)	9	12	39	25	22		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】		参加定員に達しなかった講座があり、目標を下回った。学校行事と開催日との調整が必要だった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	中心市街地の専門店や職人店に協力してもらい、職人の仕事を親子で体験する講座を実施する。また、これらの店舗をまちかど博物館とし、将来は、中学生等のキャリア教育(職業体験)の受け入れ先となる様にしていく。この事業によって職人の魂を子供たちに感じてもらう事は、モノづくりの心を育成し、さらに、職人に自信と誇りを回復させることにつながる。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	職人講座の開催 (1) 裂き織り体験講座 第1回7月31日(土) 親子4組9人、第2回8月21日 親子4組9人、第3回8月29日 親子1組2人 (2) 和菓子づくり講座 11月20日(土) 親子10組25人 (3) 提灯づくり講座 3月23日(水) 親子3組6人	職人講座実施数 参加者数	3回 親子22組51人
23年度実施計画	1 まちかど博物館へ登録してもらい新規職人や事業所の開拓 2 職人の皆さんの技術や物づくりへの考え方などを多くの方に知ってもらうためのPRを行う 3 親子職人講座の実施 ※親子職人講座は縮小し「家庭教育推進事業(社会教育)」の親子体験講座で実施	1 新規職人の開拓 2 実施回数	1 1件 2 1件

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		147	87	0	
	計(A)		147	87	0	
	正規職員所要時間			100		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			358		
	トータルコスト A+B			445		

4 事業に対する市民や職会の意見

関係していただいた職人の皆さんや参加者した親子から地域をもう一度見直すきっかけとなったと好意的な意見が寄せられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①地域資源の価値が顕在化され高まる ②市民に認知される	施策の成果指標又はムトス指標	活用できる状態の整った地域資産の数 地域資産を知っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	地域の伝統産業等を体験することで、技術を持つ職人や伝統文化などの地域資源を知るきっかけとなり市民に認知される。		
	後期に向けた課題	親子で体験することで家族の絆を再確認してもらい、地域資源を知ってもらうことで地育力の向上の取り組みにつながる。社会教育の家庭教育啓発事業の中でより多くの親子に体験してもらえるよう事業を実施する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	市内に住む伝統的な技術を持つ職人の開拓を行い、職人講座の参加費を参加しやすい金額に設定した。		
	後期に向けた課題	職人の伝統技術を次代を担う子どもたちに伝えていくために、キャリア教育の受け入れ先としての協力や家庭教育事業に位置づけることで多くの市民に地域資源の価値に気づいてもらうための取り組みしていく。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	参加者募集のためのチラシ作成等の外部委託を行わないなど経費の削減に努めたが、職人の方が受けられる参加人数に限りがあるため、チラシ配布数に比べて参加募集人数が少ないこともあり、費用対効果のコスト面では不十分であった。		
	後期に向けた課題	社会教育の家庭教育啓発事業へ統合することで、チラシの印刷代、事務の軽減が実施できる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	職人講座へ参加しやすい参加費を設定しており、また職人の方への協力を考慮すると市が開くことは適切である。		
	後期に向けた課題	同上。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	職人が自らの技術や物を大切にすることを伝えていくことで、親子が飯田の地域資源の素晴らしさを再発見してもらった。またキャリア教育の受け入れ先としてもご協力いただき、「働く」ことの大切さを子どもたちへ伝えていく役割も果たしている。		
	後期に向けた課題	キャリア教育の受け入れ先として今後も職人の方のご協力をいただきながら、親子体験としても事業を継続していくが、職人の方の伝統技術を地域の方に広く周知してもらうために、ホームページや公民館等を通じて情報を発信できるようにしていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	飯田の伝統技術や職人の方の心意気に触れることで、参加した親子が飯田の良さを再発見し、また職人が自分の技術や考えを子どもたちへ伝えていくことで、職人自身が自信や誇りを持ってもらう機会となった。		
	後期に向けた課題	職人の方の高齢化や、後継者不足により、こうした技術が継承されていくことが困難となっている。職人の技術や物を大切にすることなどを次世代を担う子どもたちや地域の大人へ伝えていくために、職人の方の情報を広く地域の方にってもらう必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------